



瀬戸会館

〒792-0821 新居浜市瀬戸町7-30  
Tel :0897-41-5859(Fax 兼用)  
E-mail: seto@city.niihama.ehime.jp

△月○日（●曜日） 日直 ○○  
▲▲

## 3月の行事予定

- ★移動図書館青い鳥号  
3月1日(水)・15日(水)・29日(水)  
14時～14時40分
- ★ゆめじゅく編集委員会  
3月7日(火) 13時30分～
- ★回転木馬（瀬戸児童館）  
3月14日(火) 10時30分～11時30分
- ★「人権のつどい日」  
3月11日(土) 10時～  
「LGBTって何？人権課題としての性的マイノリティ 同性愛・性別違和について」  
講師：レインボープライド愛媛代表 エディさん
- ★十人会（瀬戸会館）  
3月16日(木) 19時まで
- ★連合自治会「何でも相談日」…瀬戸会館  
毎週火曜日 13時～15時



2月15日、今年度2回目の瀬戸児童館と合同の避難訓練を実施しました。今回の避難訓練には、ポーセラーツと空手サークルの皆さんが参加してくださり、職員の放送・誘導により、速やかな避難ができました。避難終了後、水消火器による消火器使用の練習には、児童館の1年～3年の子どもたちが張り切って参加し、消防車についているいろいろな説明をしていただき、子どもたちからは、たくさんの質問がでました。好天にも恵まれ、子どもたちにとっても楽しい避難訓練となりました。



### 瀬戸・寿連合自治会からのお知らせ

自治会は、自分たちの住んでいる地域をより住みやすくするために、もっとも身近な住民組織のひとつであります。日常生活に密着し、ごみの問題、地域福祉の問題、防犯、防災の問題など、多くの分野において、地域での共通課題の解決のために自治会活動は必要不可欠なものとなっています。現状を振り返ってみますと、当初11自治会から現在は9自治会と減少、担い手不足の悪循環等々から、自治会解散と同時に加入率の減少も起こっています。

このようなことから、課題に答えられる組織に転換していくべき時期に来ていると思われるため、身のまわりの問題解決や地域の連帯感を高め、より心豊かな住みよいまちづくりをめざす住民組織の再編成を提案いたします。

平成29年度は、自治会組織再編成検討委員会（仮称）を設置し、今後1年を通して、協議を行ってまいりますので、地元自治会の皆さまには、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



瀬戸会館敷地内にあります住居看板は、住居表示、トタン看板など、築年数も古く、誤表示や劣化もあることから、今年度、撤去を行います。

瀬戸・寿連合自治会

### 愛媛県隣保館長・指導職員合同研修会

東温市東温中央公民館で愛媛県隣保館長・指導職員合同研修会が開催されました。まつやま子ども食堂清水店 野中玲子さんとふれあい食堂KUM E 仙波英徳さんの地域の取り組み紹介がありました。野中さんは「子どもの貧困」と「子ども食堂」がイコールで考えられると参加しにくくなるので、誰でもが訪れることができる場所としているが、支援の必要な子どもや家庭と出会った時は報告してもらい、そこから考えるようにしていると語られました。

仙波さんは「食についてもっと意識を高めてください」という啓発事業なので「子ども食堂」とは名付けなかったとのこと。人は不可能なことを探すのは得意であるが、何故必要なのか？が大切であり、あきらめず、焦らず、悔らざるトリプルAで取り組む必要があると話されました。

何が必要で、実現するための方法はどうすればよいのか。地域の方の意見に耳を傾けていく事が大切であると思いました。



## 人権のつどい日



2月の人権のつどい日は、新居浜市地域福祉課中沢美由紀さんを講師にお迎えし、障害者差別解消法について学習しました。障害者差別解消法は、「全ての国民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現」を目的としてつくられた法律です。その内容として

- 不当な差別的取り扱いの禁止
- 合理的配慮の提供

などがありますが、合理的配慮とは、障がいのある人が障がいのない人と平等に人権を享受し行使できるよう、一人ひとりの特徴や場面に応じて発生する障害・困難さを取り除くための、個別の調整や変更を行うことです。中沢さんの、「障がいのある人の障害になっている事項の解消は、全ての人にとって役立つし、暮らしやすい世の中の実現につながります。」という言葉に、参加者は大きく頷いていました。



わたしが両手をひろげても、お空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥はわたしのように、地面(じべた)をはやくは走れない。

鈴と、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい。



わたしがからだをゆすっても、きれいな音は出ないけど、あの鳴る鈴はわたしのように、たくさんうたは知らないよ。



これは、金子みすゞさんの「わたしと小鳥と鈴と」という詩です。みすゞさんは小鳥や鈴の素晴らしさを認めながらも、それを羨むことなく自分自身を主張しています。出来ることと出来ないこと、人それぞれにいろいろな特性がありますが、その全てが個性です。出来ないことにこだわるのではなく、何が出来るかを考え、それを伸ばすことが大切であるとみすゞさんは語りかけていると思います。人それぞれの個性や想いを尊重することで、一人ひとりが輝くことができることを教えてくれています。

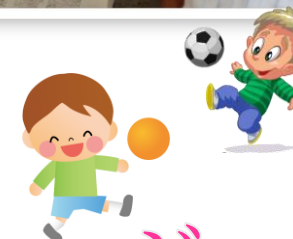
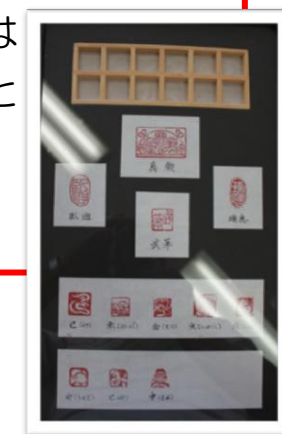
# サークル紹介



## 篆刻(てんこく)



虫眼鏡で拡大しながら、細い線を刻む作業が続きます。失敗の許されない真剣勝負。集中して取り組む姿には緊張感が漂います。てん刻による落款印は、書画作品に欠かすことの出来ないものですが、朱色の落款が書画作品を引き締めると同時に、それ自体の芸術性も高いものです。細かい作業に神経を使いながら出来上がった作品の仕上がりには大きな満足感が伴います。作業の合間には楽しい語らい。仲間との温かい空間の中にも張りつめた時間が流れていました。



## エストレージャ

小さな体に大きなボール。一生懸命に取り組む姿は何とも可愛らしく、微笑ましいものです。先生の指示を待つ子どもたちの眼は真剣そのもの。楽しさの中に、将来の運動を見越してのトレーニングに取り組んでいます。ボールを使ったトレーニングが中心ですが、いろいろな動きをすることで怪我の予防をもめざしているそうです。活動は、毎週木曜日と金曜日の17時40分から19時です。現在は就学前の子どもさんを対象にしています。

